

# 平成27年度第1回移動市長室会議録

## (平成27年4月23日)

1 日 時：平成27年4月23日（木曜日）10時～11時50分

2 場 所：筑紫コミュニティセンター 大研修室

3 出席者：

**『特定非営利活動法人ちくしの子育ち応援団はっぴい』**

白垣代表理事、高橋副理事、川畑会計、堤理事、会員 など（10人）

**『筑紫野市』**

藤田市長、檜木健康福祉部長、嘉村子育て支援課長、中村戦略企画課長、

野坂秘書広報課長、江中広報広聴担当係長、末吉秘書広報課主査、

倉掛子育て支援課主事

4 内 容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから平成27年度第1回通算45回目の移動市長室を始めさせていただきます。本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。この後、藤田市長の挨拶、ちくしの子育ち応援団はっぴい白垣代表理事のご挨拶の後、参加者の自己紹介、活動報告、要望・回答、意見交換、そして、隣の会場に移動しましてサロン視察、そして、また、この会場に戻りまして市の主な施策概要の説明、最後にお礼の挨拶、といった順番で進めさせていただきます。

活動報告では、白垣代表理事よりパワーポイントを使って、ちくしの子育ち応援団はっぴいの具体的な活動の数々、それから活動開始から10周年を迎えました今後についてお話をいただいた後、要望・回答へと移ります。その後、サロン視察、本日参加いただいた皆様からの声を聞きたいというところで意見交換の時間を設けています。

本日の懇談内容は、会議録を作成し公表させていただきます。撮影した写真は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきます。

では、初めに、藤田市長が皆様にご挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、おはようございます。本日は、平成27年度第1回目になりますが、今年度最初の移動市長室を、特定非営利活動法人ちくしの子育ち応援団はっぴいの皆さんと懇談させていただく事になりましたことを大変うれしく思っています。

白垣代表理事をはじめお集まりの皆さんには、日ごろより福祉行政はもとより市政の運営にご理解とご協力をいただいております心から感謝申し上げ、また、ご多用の中にこのような移動市長室の開催にご尽力いただいたことにも、併せて深く感謝を申し上げます。

近年、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化などから、身近な地域に相談できる相手がないといった子育ての孤立化や、家庭や地域における子育て力の低下といった子育てをめぐる社会環境は大変厳しい状況でございます。

このことから、地域をあげて社会全体で子ども・子育てを支援する新しい支え合いの仕組みを構築するため、本年3月に「子ども・子育て支援事業計画」を策定しており、本市における子育て支援の施策を推進していくこととしておるところであります。

本日は、日ごろの皆さんの活動状況や課題を伺いながら懇談させていただきます。どうか皆さん方の忌憚のないご意見や思いを伺わせていただきますようお願い申し上げまして、ご挨拶と代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○（事務局） 続きまして、ちくしの子育ち応援団はっぴいの白垣代表理事、よろしく願いします。

- （白垣代表理事） 皆さん、おはようございます。はっぴいの代表をしております白垣です。日ごろから、私たちは、「ママの笑顔は子どもの笑顔」ということをテーマとして活動しております。今日は、そのテーマに沿っていろんな活動をしております、そのお話を市長さんに聞いていただけることをとてもうれしく思っております。どうぞよろしくお願いたします。
- （事務局） ありがとうございます。ここで、本日の参加者の自己紹介を行います。まず、市側から行います。私は、司会を務めさせていただきます秘書広報課の野坂です。
- （榎木健康福祉部長） 健康福祉部長の榎木です。今日は、皆様方の貴重な御意見をたくさん聞いて帰りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。
- （子育て支援課） 子育て支援課長の嘉村です。
- （戦略企画課） 戦略企画課長の中村です。
- （事務局） 秘書広報課の江中です。
- （事務局） 秘書広報課の末吉です。
- （子育て支援課） 子育て支援課の倉掛です。
- （事務局） 続きまして、はっぴいの皆様、お願します。
- （高橋副理事） 副理事をしております高橋京子です。主に子育て講座、それから広報を担当しております。元気で笑顔がモットーでやっています。
- （川畑会計） 会計を担当しております川畑です。私は、普段、フルタイムで仕事しておりますので、家に帰って会計などのバックヤードで、はっぴいの活動を支えていると思っております。
- （堤理事） 託児担当をしております堤です。いつも子どもたちの笑顔は、私たちの活動の中心になっていきますので、これからも頑張っていきたいと思っております。
- （会員） 伊藤善子です。子どもたちの笑顔を力に活動させていただいております。
- （会員） 松田啓子です。私も、子どもたちと会うのを楽しみにしています。
- （会員） 広報を担当しております白水久美です。まだ幼稚園と小学校2年生の3人の子育て中のお母さんです。
- （会員） 福海文子です。3人のお母さんです。小さい子たちを抱っこして、癒されて帰っています。
- （会員） 山口知子です。今年中学1年生に上がった息子が、はっぴいに一番最初にお世話になったのが御縁でお手伝いをするようになりました。

○（会員） 上籠淳子です。広報を担当しております、はっぴい通信やホームページを作成しています。

○（事務局） ありがとうございます。それでは、活動報告に入ります。はっぴいの概要と組織、重点目標、事業内容について御説明をお願いします。

○（白垣代表理事） はっぴいの活動内容を御紹介させていただきます。

私たちのまず目的です。子どもの健全な育成を目指し、子育てに悩む保護者や子どもに対して地域で支え合い、育ち合うための活動を目標として立ち上げております。

最初に立ち上げたのが平成17年10月、7名の有志で、自宅で子育てをしていられる親子の御支援、何とかできないものかということのを皆で考えて、「みんなの広場」というのをつくって、誰が来てもいいよ、いつ来てもいいよ、いつ帰っていいよというような自由な、何の制約もない場所をつくりたいということで始めました。

そして、5年後ぐらい、平成23年4月に特定非営利活動法人として設立いたしました。これは、そのころから集団託児の依頼がすごく増えてきて、親子の見守りではなく、子どもさんをじかに預かるというような活動がすごく増えてきて、そうすると、やっぱり親御さんからすれば、はっぴいはどういう団体なのだろう。やっぱり信頼関係がなければ預けてもらえないというのがありますので、自分たちも団体として、しっかりした団体になりたいという思いもありましたので、特定非営利活動法人として県に申請しまして、そしたら通りましたので、設立いたしました。

7名で始めたはっぴいですが、現在、会員31名で活動しております。

これがメインの私たちの活動、10年前から続けてきたみんなの広場ですけれども、屋根のある公園というコンセプトに、室内なのですけれども公園に遊びにくる感覚でということを始めました。

お母さん方も、公園デビューというのは難しいみたいで、なかなか仲よくなれない。先にグループができると、もう入れないということをよく耳にしましたので、こういう広場の中に、私どものおばちゃんスタッフが2名入りまして、その新しく入ってこられた方を誘導して、前の方とちゃんと仲よくできるように手助けをするという形でやっております。

お母さん方も、子育て中のちょっとした悩み・不安、皆はどうしているんだろう、こんなとき、どうしているんだろうというような思いを、この場でいろんな方とお話する中で解決していく。どこかに相談に行くほどのことでもないぐらいのことなのですけれども、そういう小さいことがたくさんあるので、それをこの広場で解消していただきたいと思っ

てやっております。もう子どもたちも自由に、いろんな年齢のお子さんが自由に遊べるということで、自由参加の広場です。

昨年度、平成26年4月から平成27年3月まで、年間開催日数43日、これはお盆とお正月以外の第1から第4の木曜日は、全部やっております。参加親子の人数、同じ方が何回も来られるのですけれども、232家族の方に御利用いただいています。

次が、はっぴい農園です。NPOを申請したときに、一番いいと褒められたのがここなのですけれども、広場をやっているところは各市町村、いろいろたくさんあるのですけれども、これをやっているところは少ないと、とても褒めていただいたのが、はっぴい農園ですが、親子で自然に触れ、土に親しみ、季節の野菜を育て、収穫・調理し、食することにより、安全・安心な食育の実践を行っております。

今、食育というのは、いろいろ言われておりますが、もうママたち自身でさえ、タマネギがどうやってなっているのか知らない。実になっているんじゃないかぐらいの意識があった。ジャガイモは、どうやってなっているのかもわからないという、子どもたちというよりもママたちの食育ですね。好き嫌いの多い方もたくさんいらっしゃるので、自分でピーマン作って育てたら食べるんじゃないか、みたいな感じで行っています。

昨年、1年間のものなのですけれども、5月に夏野菜の植えつけをしまして、サツマイモの苗の植えつけ、それから、夏野菜ができたところで、夏休み中に、8月に夏野菜クッキングを計画したのですけれども、あいにく台風が来まして、当日は大したことはなかったのですけれども、やっぱり親子連れで、小さい子を連れてくるということなので、ちょっとでも不安があるときは、もう中止にしております。ということで、昨年度は中止になりました。

10月にサツマイモの収穫祭、11月にタマネギの苗を植えつけております。2月23日にジャガイモの種芋を植えつけております。今年の5月29日に、このジャガイモ、タマネギ収穫祭というのを計画しております。

前は、3歳ぐらいのお子さんが、結構、広場にたくさん来られていたので、はっぴい農園広場という形で親子に来ていただいて、種まきだとか植えつけだとか、あと手入れ、芽かきだとか、いろいろ手入れがあるので、そういうときに、はっぴい農園ということで来ていただいていたのですが、最近、ちょっと変わってきてまして、来ているお子さんが2歳以下というぐらいの、もう小さい子になってしまって、そういう作業ができなくなっちゃったのですね。一応、はっぴい農園広場ということで、ママたちにお声かけをしているの

ですが、現在は、余り参加していただけていない状況です。

なので、メインはこういう収穫祭です。サツマイモ、ジャガイモ、タマネギの収穫祭がメインになっております。

これは、スイカです。小玉スイカを植えたときに親子で収穫に来てくれたということ。

こちらの右側がサツマイモ芋掘りです。これは土曜日に開催しましたので、パパの参加もあり、おじいちゃん、おばあちゃんの参加もあって、とてもアットホームな感じで楽しむことができました。

これは、夏野菜のキュウリですけど、収穫しているところです。

これは、去年のものではなく、その前の年のものなのですが、親子でクッキング、その収穫した野菜を使って、皆で調理しましょうということで、クッキングをしております。

次は、子育て講座、子育てレッスンですが、講師をいつもしているのが、副代表の高橋ですから、ここだけ変わらせていただきます。

○（高橋副理事） 今日、隣の広場で担当しております高木と高橋と2名で、いつも子育て講座をやっておりますが、昨年度は山家コミュニティセンターの子育て講座、それから、筑紫南コミュニティセンターの主催講座、ファミリーサポートの学習会で行いました。

日ごろ、広場で子育て中の母親と接しておりますと、かつて私たち皆そうであったように、現在進行形でお母様、頑張っているスタッフもおられますけれども、皆さん、子育ての悩みを抱えているということを実感します。

そして、私が一番驚いたのは、やはり自分の母親にも相談できないという若いお母さんが多いということですね。子どもがそういう状況なのは、あなたの育て方が悪いんじゃないというふうに責められるから、私は一切、相談したくないという方が多いのですね。

それで、安心して前向きな気持ちで子どもと向き合って、親子で育ち合ってほしいと、そういう私たちの願いから、子どもの理解の仕方、それから子育てのあり方など、この時期に本当に大切なこと、ぜひ知っておいてほしいことを皆で学び合っております。

子育てレッスンでは、悩み事の中でも一番多い乳幼児の心と身体の発達について、そのことをゆっくりお話しします。

それから、まず親がコミュニケーションの方法を学ぶ、そしてよい人間環境を築くことが、子育てには欠かせないものじゃないかというふうに考えまして、私が親業訓練インストラクターをしておりますので、お伝えしております。

ほかに、親子のスキンシップ、乳幼児期はスキンシップが一番大切ですので、それを楽

しくできるためのわらべ歌、わらべ歌を知らないお母さん方多いですから、電車の中とか集団の中で、ちょっと泣かれたりすると困るけれども、短い、ちょっと楽しくできるわらべ歌を知っていると、子どももすぐ泣きやんだりとか、とても便利ですと、お母さんたちから喜ばれています。

そして、絵本の読み聞かせは大切だということは、もう皆さん、よく御存じで、それを伝えることはもちろんなのですけれども、日ごろ、子どもたちに絵本の読み聞かせをしてあげているお母さんたちに、必ず私たちは読み聞かせをします。これは、とてもお母さんたちは喜んでくれますね。

子育て講座では、少しの間、子どもと離れて、お母さんが穏やかな気持ちになって、また、頑張っていこうと思えるような時間を過ごしてほしいと思っております。

どの方も、最初は緊張して悩まれている表情であったりするのですけれども、進めるごとに、「ああ、自分だけじゃないんだ、悩んでいるのは」「あっ、こんなに深く悩む必要がないことだったんだ」、発達のことなどを聞くと、そういうふうに思われて、表情がどんどん明るくなっていきます。

私たちも、そのお母さんたちの笑顔に励まされる思いで続けていく状況です。

○（白垣代表理事） 次は、どんどこまんちゃん親子講座、これは、筑紫南コミュニティセンターの主催講座の一つで、1年間の10回講座です。

これを、はっぴいのほうに依頼を受けまして、全てはっぴいが親子講座ということで実践しているのですけれども、昨年度、5月から3月までのものですが、まず親子で共同制作ということで名札、それから、ステージ発表があるのですけれども、その衣装をつくるのも、ママたちで作ってもらおう。土台は私たちが用意するのですが、そのいろんな上からつけるものとかは、ママたちに作ってもらいました。

そして、子育てレッスン、先ほどの高橋の子育てレッスンを学習会という意味合いも込めて、2回入れさせていただきました。

そして、親子クッキング、ほとんど、私たちはっぴいが作るのですが、その粉をこねたり丸めたりというような、小さい子でもできるような作業をやってもらおうという形で、親子でクッキングということをやっております。

ステージ発表ですね。親子で初舞台を踏んでもらいたい。この先、子どもたちは大きくなって、幼稚園、小学校で子どもたちだけで舞台上がることはありますが、親子で舞台上がるということは、もうないのではないかと思います、親子で初舞台を踏んでいた

だこうということで、もう5月の段階から徐々に練習をしてきまして、10月に発表ということをやりました。昨年、初めてやったのですが、今年度もまた、親子講座をはっぴいが受けておりますので、今年度もまたステージ発表をしたいと思っております。

最後に、クリスマス会です。これは、館長さんにサンタさんに扮してもらいまして、このステージ発表でやった踊りとかも入れながら、クリスマス会を行いました。

次に、地域交流ということで子どもフェスティバル、毎年4月に行われてきたのですが、そこで、親子で遊べるというか、親子で休憩できる場所、パパとか結構疲れちゃって、なので、その場に椅子をずらっと並べて、パパ、休んでって。その前にマットを引いて、学生ボランティアさんとかがたくさん来られますので、一緒に子どもたちをここで遊ばせるときすみたいな感じで、親は休憩、子どもは遊ぶという感じの「ほっとスペース」というものを開催しました。

残念ながら、この子どもフェスティバルは、子ども劇場さんが主体となってやってくださったのですが、もう今年度からは休止ということで、休ませてくれというふうにおっしゃって、また元気出たら始めますということだったので、しばらくは多分お休みになると思います。

次のふれんずひろば、これは社会福祉協議会主催の広場で、社会福祉協議会の子育て支援の事業ということでやっていらっしゃいます。ここは、もうカミーリヤの多目的ホールを全部使って、大型おもちゃ、それからボランティアバンクからのボランティアの方、もういろんなところが入って、結構、大がかりな広場になっております。

私たちも、赤ちゃんを預かる託児コーナーというところで、はっぴいで託児をしたり、私たちは受付をしたりということで、ボランティアでも入っております。

前は、もう本当にびっくりするぐらい、100組を超える親子が来られて、「筑紫野市に、えっ、こんなにいたの、親子が」って、本当に私たちびっくりするぐらいたくさん来られていました。

今年もまた、計画されているそうなので、また参加したいと思っております。

次は、筑紫地区文化祭「夢まつり」参加、これは、土曜日に親子のステージ発表を行って、この日曜日にやったものは、私たちがフリーマーケットをさせていただきました。私たちの運営資金、活動資金を得るために、フリーマーケットを年間何回かやっております。

それと、長崎県長与町民生委員との交流会ということで、これは子育て支援課とファミリーサポートからお話が来まして、ちょっとお話を一緒にしてみませんかということで参



りまして、お互いの活動の状況などを話し合いました。

私たちも、もう自分たちだけでやっているのですが、外のことがよくわからないのですけれども、こういう機会を与えてくださったことで、すごく勉強になりましたので、またこういう交流会みたいなものが開けるのであれば、ぜひはっぴいを呼んで、していただきたいなと思っております。

次は、イベントです。イベントといいますか、さっきはフリーマーケットがありましたけれども、二日市小学校でフリーマーケットをするということを知りまして、それで、どんな団体でも入っていいということでしたので、初めて小学校でフリーマーケットを開催させていただきました。それが上の写真です。

次が、工作イベントで、「ミニほうきを作ろう」ということで、お正月明けの1月6日、冬休み中にやろうということで、小学生、幼稚園を対象に、冬休みの工作みたいな感じで開催させていただきました。これは、社協さんの天拝の館で開催をいたしました。このときは12家族の参加で、子どもたちは18名ということで、結構にぎわいました。

このわらなんですけれども、はっぴい農園は、今、畑が2つあるのですね。芋畑といろんな野菜を作っている。で、なかなか畝立てたり、私たちもできませんので、知り合いの農家の方に手伝っていただいて、畝づくりとかを日ごろ、やっていただいているのですが、そちらにお願いして、わらを大体は機械で、ぶちぶちに切った状態になるのですが、長いまま、きれいなままで刈り取っていただいて、それをきちっと乾燥していただいたということで、そのわらを使ったほうきづくり。

なので、子どもたちにも、もう小学生も来ていましたので、そのお米ができる様子とか、そのわらの活用法とか、そういう学習的なものもお話しさせていただきました。

そして、このほうきは、わらだけではなく、アクリル毛糸を使ったカラフルなほうきも、もう一本作っております。2種類作りました。

そのカラフルなミニほうきというのは、パソコンとか電子機器の掃除に使ってほしい。子どもたちは、自分たちの机の上をきれいにしましょうという、それはママたちからの、これがあればきれいになるよねというふうな感じで、自分で作ったものだから、ちゃんと使おうねという感じで、言っていました。

次に、集団託児ということで、何で集団かといいますと、私たち、個人の託児は受け付けておりません。いろんな団体とかサークルとか、そういうところからの依頼だけを受けております。これは、いわゆる有償ボランティア、お金をいただいてやっているわけです。

それだけ責任も伴いますけれども、唯一、お金をいただいてやっているというのは、この集団託児です。

どんなところからの依頼かというと、主に家庭教育学級の講座は、小学校が11校ありますけれども、その全部行っていらっしゃいますので、そこからの依頼で私たちが託児者をそれぞれの小学校に派遣して、その小学校で託児をするという形で、続けております。

そのほかにいろいろな課から、市の男女共同参画推進課、生活福祉課、いろんな課からの託児の依頼を受けておりますが、ほかにも体育協会、体操のフィジカルというのがあるので、その依頼も受けております。

あとママさんサークル、唯一ですけど、ママさんのサークルの託児をかれこれ6年前から、エアロビクスですけれども、ずっと続けております。

実際、預けられる子どもたちはどうなのかということなのですが、子どもたち自身も遊びが学習の場なので、いろんな年齢の子どもたちが親から離れて、知らないおばちゃんにというところで、ちょっとパニックになるようなこともありますけれども、その知らない子どもたちの間でいろいろ葛藤がありますので、それが協調性やら社会性、人とのつながりみたいなものを覚えていくという、子どもたちにとっても決して無駄な時間ではなく、成長する時間だと私たちは捉えておりますし、そういう託児をしております。

終わりにということで、10周年を迎えて、親子に寄り添っていきたいという思いで、はっぴいを立ち上げ、みんなの広場を始めました。これまで、活動を続けてこられたのは、市を初めお世話になった全ての方々の御支援があったからこそと感謝しております。

これまで、たくさんの親子の笑顔に出会い、元気をいただきました。そこで、感謝の気持ちを込めて、はっぴい同窓会を開催しますということで、10周年というと、パーティーとかよくやられますけれども、10周年を迎える記念として、はっぴいらしいものは何だろうということを考えたときに、同窓会が一番いいのじゃないか。

特に、初期のころ、立ち上げて間もないころは、もう広場をどういうふうにしていこうかというのを、来られているお母さん方と相談しながら、話し合いをしながら作っていったのです。どうすれば、ママたち楽にできる？と、こういうことをしたら楽しい？と、こういうことをやってほしいというような、そういうものを積み重ねて、現在に至っているところなので、私たちも、そのころの方とぜひお会いしたいし、もう大きくなった子どもたちとも、ぜひ会いたいなという思いもありますし、ママ同士も、広場でずっと一緒だったのだけど、それから幼稚園が違う、小学校が違うということで、連絡があんま

りとれなくなったというママたちが、どうしているかなというのをよく聞かれるのですね。

だったら、1回、集まってみませんかということで、ママ同士の交流の復活というのも、また考えております。ということで、この隣の大研修1で、はっぴい同窓会を開きたいと思っております。

最後に、10周年の節目の年に、私たちの活動について市長さんにお話しできる機会をいただいたことは、はっぴい一同、感謝しております。ありがとうございました。

○（事務局） ありがとうございました。子どもや子育てに悩む親への支援、それから地域の中で支え合う、そういったさまざまな活動の様子がよくわかりました。

ここで、幾つか、今後の子育て団体なども含めまして、支援の参考とさせていただきたいといったところで、お教えいただきたいことがありますので、質問させていただきます。

まず、理事の方々、皆さん、ファミリーサポートセンターの会員とお聞きしています。はっぴいを設立されたときに、いろいろと御苦勞をされたことがあったのではないかと思います。その辺のお話を聞かせていただけますでしょうか。

○（白垣代表理事） 設立当時は、広場をやろうと言ったものの、おもちゃであるとか、絵本であるとか、赤ちゃんを寝かせる敷物であるとか、そういうものは、もう全員が自宅から持ち寄って始めたのですね。

そういう状態で始めたので、どういうことをすれば、ママたちが喜んでくれるのか、楽しんで帰ってくれるのかっていうのが、よく最初わからなかったのですが、ママたちと一緒に話し合いしながら、まずは作っていったということですね。

○（事務局） 参加されるお母さんたちと一緒にやっていくということですか。

○（白垣代表理事） そうです。遊びにきてくれるお母さんたちと一緒に、私たちも広場というのをどういうふうな形にしようかというのを相談しながら、作っていきました。

○（事務局） このみんなの広場ですが、割と自由度が高いという印象を受けたのですが、利用者の中には、いろいろな方がいらっしゃると思うのですが、何か注意されている点とか、そういったところがあればお聞かせいただきたいなと思います。

○（白垣代表理事） 来られるママによっては、お子さんの発達状況がちょっと心配な方もいらっしゃいますし、動きがちょっとということもありますので、そういうときは、現在は、子育て支援センターのほうに御連絡しています。指示を仰ぐというか、どういう対応をしたらいいのでしょうかということでお尋ねして、現在はやっております。

○（高橋副代表） 初めて来られるお母さんというのは、やっぱりかなりハードルが高い感

じで来られるので、皆さん慣れているところに入られるのは、とても大変だろうということで、必ずちょっと様子を見て、スタッフが声かけするようにやっています。

○（事務局） 会員の方で、こういうことに注意されているよということはあるですか。

○（会員） できるだけお話を聞きやすい雰囲気をつくるように、少しでも悩みとか聞き出せたらいいなという気持ちですしております。

○（白垣代表理事） 実は、その初期のメンバー、山口さんはママとして、子どもさんを連れて広場に来ていらした方なので。

○（会員） 第1回目から。

○（白垣代表理事） 1回目から一緒に作ってきたママですよ。どうでした、最初。

○（会員） もう本当にありがたかったです、もうこういう場ができたことが。

実は、中1の息子の上に中3の娘がいて、娘がすごく大変だったので、ああ、もうちょっと早くできてくれていたらという気持ちがあったのですが、娘のことも相談したりとか、すごく助かりました。

○（事務局） 活動を開始して10年といったことですので、子育てのあり方とか、いろいろそういったのも変わってきているのかな。お父さんの参加が増えたりとかというところも、恐らくあるのかなと思うのですが、そういった変わりとか、そういった中でのお困りだとか、そういったものがあるでしょうか。

○（堤理事） 困ったこと、楽しかったことのほうが。

○（事務局） 楽しかったことでも、いいですよ。

○（堤理事） 先ほど言われたように、広場に初めから来てくれていたお母さんたちが、だんだん子どもの手が離れて、今度は私たちの側に入ってもらって、一緒に活動してくれているということが、とてもうれしく思っています。

お母さんたちも、仕事をし出すと、やっぱり私たちの活動には、なかなか参加できないのですが、いろいろ声をかけると、できるところで協力していただいたりもするので、そういうことが一番うれしいですね。

町を歩いていて、託児のところで知り合った子どもたちが、「こんにちは」と言って声をかけてくれるのも、私たちは、もうその笑顔が一番うれしいです。

○（事務局） 会員の方から何か。

○（会員） 私は上が1人と下に双子がいるのですが、上は2歳、3歳になるときに双子を抱えて、やっぱり自由に何もできなかったのですよね。

上の子は、もう一番、公園で、わあって走り回ったりする年なのに、下の子は、もうベビーカーがないと、私、身動きができないのですよね。お兄ちゃんは滑り台とか、まだ高いところに行って、ついていってあげたくても、下を見ている人がいないし、今度は、双子が1歳、2歳になってきたら、こっちが動き出したら、双子なので、あっちに行ったりして、もう本当にそういう生活をしていたときに、息抜きの場がなかったのです。

私、毎日子育てでいっぱい、もう大人と話したりとかがなくて、やっぱり仕事もしていたので、もう少しパソコンを使ったり、大人の会話をしたりとかしたい、そういうときに、はっぴいさんと知り合って、少しでも子育てをしながらでもできる仕事をさせていたいただいたのが、すごく救いになりました。

○（事務局） 最近はどうですか。お父さんたちの参加とか、かかわりとか。

○（白垣代表理事） お父さんたちに参加してもらおうと思えば、私たちのイベントを土曜とか日曜に開催しなければいけないのですね。

去年、一昨年は、土曜日にサツマイモ掘りとかをしましたので、パパの参加もありましたし、おじいちゃん、おばあちゃんもあったということです。

そこがちょっと悩むところで、私たちのスタッフは、日曜とかはなかなか出づらい。家庭がありますので、私たちのモットーは家庭第一です。もう活動より前に家庭が第一。家庭で何かあれば休んで、私たち皆でフォローするからという形で、ずっとやってきました。だから、続いたと思うのですよね。

まず、家庭第一ということなので、なかなかちょっと土日の開催、厳しいのですけれども、そうすることによって、パパの参加もありましたので、今後は、ちょっとそういう形で増やしていこうかなと思っています。なかなか平日にパパの参加は見込めないということで、でも、いろんなイベントを計画していきたいと思っています。

○（事務局） いろいろ教えていただきまして、ありがとうございました。

それでは、次は、要望・回答です。要望について御説明いただきまして、それから市からの回答、一問一答の形式で進めさせていただきたいと思います。

まず、1つ目の要望からお願いします。

○（高橋副理事） 次の事項について要望いたします。

1、地域ボランティアの育成支援について。小学校の入学式において親が安心して式に参加できるように、全小学校において集団託児を実施してほしいという親の声があります。私たちが受け皿になっていいと考えますが、全小学校となると、私たちだけでは実施する

ことができませんので、地域ボランティアの育成を支援してほしいです。

○（事務局） では、健康福祉部長の檜木からお答えいたします。

○（檜木健康福祉部長） どうも御要望ありがとうございます。小学校の入学式における託児の実施についてということで、前向きな御意見でして、本当にありがとうございます。

地域ボランティアの育成ということで、本市にとりましても重要な課題の一つでございます。藤田市長のこれまでの取り組みによりまして、市内のNPOやボランティア団体等の数は、確実に増加しているところです。

市が把握しておりますNPO、ボランティアの団体の数ですけれども、平成21年度、217団体であったのが、平成25年度では、273団体に増えております。

社会福祉協議会が把握しております福祉系のボランティア団体ですが、これは平成21年度、30団体であったのが、平成26年度には38団体と増えておるところです。

ボランティアの実際の人数につきましては把握が難しいものですから、ちょっとできていない状況です。

そのような状況でして、現在、御要望に対しましては、本市では、ファミリーサポートセンター事業、御存じのとおりでございますけれども、会員になるための学習会に参加した方々が、おねがい会員とまかせて会員にそれぞれ登録をしていただき、活動を行っていただいているところです。

まかせて会員は、子どもの預かりを担っていただく方で、そのための知識を学習会で習得をされていらっしゃいます。この方が、地域の中でボランティアとして活動できるような体制の整理を、今後、推進していきたいというふうに考えております。

そのほか市では、育ジイの養成講座、それとかステキな夏休み教室等の子育て支援に係るボランティアの育成、さらに、県の事業としまして、子育てマイスター事業等を実施しているところです。

ボランティアの育成は、単に子育て支援ということにとどまらず、これからの共助社会づくり、そういったことに向けて大変重要な存在です。今後も、ボランティアの育成に向けての取り組み、こういったものの拡充に向けて、取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方の御協力をまたよろしくお願ひしたいと思っております。

○（事務局） 以上、要望の1つ目の回答でした。御意見、御質問がございましたら、最後に伺わせていただきたいと思います。それでは、要望の2つ目をお願いします。

○（高橋副理事） 2、中学生と乳幼児とのふれあい体験学習について。核家族化、少子化

により、乳幼児と触れ合う機会が少ない中学生に、実際に赤ちゃんに触れ合う体験を通して、命の大切さや親子の絆を感じとり、自分も親から大切に育てられ、自分の命も人の命も、かけがえのないものと理解し、将来、子どもたちが親になるための準備教育として体験学習が重要であります。また、中学生だけでなく、参加した親にとっても、子育ての楽しさや成長の喜びを実感する場でもあります。大野城市で実施している中学生子育てサロンを市でも実施できないでしょうか。

○（**檜木健康福祉部長**） これも私から回答させていただきます。これも、積極的な前向きな御意見でございまして、本当にありがとうございます。

本市といたしましても、現在、子どもたちが乳幼児と触れ合う機会を持つことは、命の大切さを学ぶことができることはもとより、次代の親としての家庭観の醸成や自己肯定感を育むために、大切なことと考えておりまして、現在、中学校では、家庭科の授業におきまして、これは3年生ですけれども、視聴覚教材やロールプレイ等で、乳幼児との触れ合いの学習をさせていただいているところです。また、職場体験、これは2年生ですが、実際に保育所に出向きまして、体験学習を実施させていただいている状況です。

御要望にございます乳幼児との触れ合い、大野城市の場合ということですが、全中学校3年生を対象にしまして実施をされておるということで、大変素晴らしい取り組みとは思いますが、現在、限られた授業時間数の中での実施ということになりますと、大変厳しい状況にございます。

したがって、これまでどおりの体験活動の継続実施を推進させていただきたいと考えておるところです。

しかし、本日、皆様からのこういった御要望は、貴重な御意見として賜らしていただきたいと考えております。そのような実施に向けての体制づくりが、できつつあるということは、しっかりと受けとめさせていただきたいと考えております。以上です。

○（**事務局**） 以上が、要望の2つ目の回答でした。

それでは、このまま次の意見交換に、進ませていただきます。これまでの回答についての御意見と御質問がございましたら、どうぞ、御発言をお願いします。また、本日のテーマ、子育てに関することで、藤田市長に直接聞いてみたい、あるいは意見を言ってみたいという方がいらっしゃいましたら、どうぞ発言をお願いします。

○（**白垣代表理事**） 実は先日、筑紫女学園大学の学生さんが2人、はっぴいのほうに来られてまして、ボランティアをしたいのですがということでしたのですね。

大学の学生3人、幼児教育科ということなので、将来の幼児教育を担っていく方々なのですが、学校の勉強以外に、実践的な場としてのボランティアをしたいという要望があったことが、とてもうれしくて、その受け皿として私たちが提供できるということが、ああ、10年やってきてよかったなど、現在、だから受け入れられるのだということで、非常にうれしく思っております。これから先、そういうボランティアの受け入れとか、そういうことも、ちょっと視野に入れながら、活動していきたいなと思っています。

○（事務局） ありがとうございます。先ほど、活動報告の中で全ての母親が子育ての悩みを抱えているといったことを言ってあって、非常に印象的だったのですが、その親御さんたちの悩み、具体的にどういった悩みが増えているとか、そういったところがあれば。

○（白垣代表理事） 私たちからすれば、もうこの年になってくれば、些細なことなのですよ、もう通り過ぎていった者にとっては。

でも、特に最初の子ども、第1子の場合は、お母さんたちも、もう周りが見えないですね。寝ない、1日中、泣いていて、もうどうかなりそう。飲んでくれない、食べてくれない。そういう悩みが、もうすごく深刻なのです、本人にとっては。離乳食をもうすりつぶして一生懸命作って、はいつてしたときに、べーって出された。そのことだけで、もう、こんなに私頑張ったのに、この子、食べてくれないんです。本当に泣きそうなくらいになった。ええ、それ、まだ時期じゃないんじゃない、ちょっと早いんじゃないとか、私たち、思ったりするのですね。

でも、いろんな情報はたくさん入っているので、生後6カ月になったら、もう食べさせましようみたいな、これから始めて、みたいなことをインプットされているので、実際、我が子にしたときに、そのようにならないというと、自分の作り方が悪いのかということで、自分を責めてしまう。

それから、この子が悪いみたいな、そういう何かもうすごく狭い中での些細な悩みだなと私たちは思うのですが、本人はすごく深刻だということで、そういう悩みを本当に真正面から相談に乗るといえるのか、対応をしていく。

ああ、そんなん、もうちょっとしたら大丈夫よなんて、気楽なことを言える雰囲気ではないぐらいのことなので、そういう対応ですね。

ママたちは本当に真剣で、一生懸命子育てをしていらっしゃると思います。だから、何とか力になりたい、寄り添いたいと思うのですね。

○（高橋副代表） そして、発達のことを講座でお話しするのは、やはり何歳、何歳のとき



に、こうなります、ああなりますと、育児書に書いてあるとおりには育たない子は多いわけですから、かなり幅が広いということもお伝えしますし、お母さんの悩みを聞きながらなんですけど。

あと、2歳ぐらいになると、やっぱり人のものも自分のもの、自分のものも自分のものという、誰のものでも取ったり引っ張ったりとか、けんかが始まりますよね。そういうことで、まずお母さんたちが悩まれるのですね。

あと、嫌々期、もう全てのことを嫌と言ってしまう。それは、子どもがとても順調に育っている証拠で、自分の自己がだんだん出てくるという、本当にいいことなのだというふうな捉え方、それをお話しするようにはしていくのですけれども、まずそういうところでお母さんたちは悩まれているのを感じます。

だから、「大丈夫、ああ、それは大変だったね」ってまず言うと、本当に涙を流されて、ほっとされるのですね。普段来られていて、本当ににこにこされていて楽しそうにされる親子でも、いつも何か不安だったり何か悩みを抱えていたりというんだなというふうに、私は、いつも感じて接しています。

あと、やっぱり講座なんかで、集団で複数でお話をしたりすると、横のつながりができますから、お母さんたちの横のつながりをつくるのが難しい時代なのじゃないかというふうに、皆でお家を行き来するということが、なかなか難しくなっているもので、こういう場で、子どもも楽しいですけれども、お母さん同士がお話をする、できる、そこでやっぱり安心して帰られるということが、とてもいいのじゃないかなと思っています。

○（事務局） 会員の方々、何かありますか。

○（川畑会計） お金の話は全然出てこなかったのですけども、会計、今は、百何十万円という、大きいのか小さいのかというのは、ちょっとわからないのですけれども、おかげさまで、託児の事業、たくさん依頼をいただきまして、このような金額を扱っているのですが、でも、実際は、いろいろ出ていくほうが多くて、本当に私たち、もう手弁当でやっているという感覚なのです。

おかげさまで、お部屋を使うのに、ここの広場とかは無償でさせていただいていますが、私たちの会議する場所、実は私たちNPO法人でありながら、事務所とか持ってないのですけれども、いろんなものをもう本当に手弁当でやっているもので、これからも今までどおりの御支援をお願いできたらなと思っています。

○（藤田市長） 白垣理事さん、たくさん事業をしてあるようなのですが。

○（白垣代表理事） ママたちと話し合っているうちに、こんなことやってほしい、あんなことやってほしいという希望が出て、じゃあ、やってみようか、やってみようかといっているうちに、こうなってしまいました。

もう最初は、本当に広場とかで、何にも他のことを考えていなかったのですが、こんなことをやってくれたらうれしいとか、こういうことをやってみたいとかいう希望がどんどん出てきて、それに私たちもなるべく応えたいということで、こんなに活動がいっぱいになってしまいました。

○（藤田市長） 白垣理事の言われる家庭第一。

○（白垣代表理事） 家庭第一です。スタッフ、会員は、ですね。

○（藤田市長） それで、これだけの事業をやるのでしょうか。

○（白垣代表理事） やっています。

○（藤田市長） かなり家庭が犠牲になっているのじゃないですか。

○（白垣代表理事） いや、まあ、うちに限ってはなっています、夫は。だから、夫も引き込んでいるのですね。夫も一緒に芋掘りのときに手伝いで来てもらったり、私たちファミリーサポートの出身で、ずっと自宅でお子さん、これを始める前からずっとお預かりをしていて、家庭の中に小さい子がいるという状況を、家族で夫も娘もいる状況で、ずっと何年もやってきましたので、この子どものことに関することについては、すごく協力的です。

○（高橋副理事） 例えば、10年やっていると、子どもが受験であるとか、あと、この間、うちもそうでしたけれども、結納とか結婚とか、もう大事な家庭にとっては一大イベント、そういうときは、もう正直に、これなのでできません。ちょっと休ませてくださいという形で、そのときは、他のスタッフがサポートしてくれるのですね。

私たちの年代になると、孫のことも、それにちょっと振り回されることがありますし、介護の時間に費やす精神的なものと時間というのが、本当に大変ですね。

だから、それが本当に大変なときは、私なんかも、ちょっとこの期間はできませんという感じで、休ませていただいたりとか、そういうことはありました。それがなければ続けられなかったと思います。

○（白垣代表理事） それぞれ事情があってお休みしたいと言われるときは、どうぞ休んでくださいということで、休んでいただいています。

○（高橋副理事） 必ず復帰してくださいませぬ。

○（白垣代表理事） そのときは、他の方がカバーに今度入りますという形で、相互に協力

し合いながらということで、設立当初の最初のメンバーが、10年たった今でも全員活躍をしております。誰一人やめることなく続けてきているというのは、そういうお互いのことを思い合って続けてきたということは、財産じゃないかなと思います。

- （**檜木健康福祉部長**） 会員さんの数は、やっぱり増えてきているのですか。
- （**白垣代表理事**） もう増えたり減ったり。もう特にご覧になっているように、若いママが結構、スタッフで多いのですね。やっぱり今、社会状況がいろいろと変わりまして、共働きしないと、なかなか生活が維持できないというような状況、やっぱりパートに出られる方が増えてきましたので、今年度、もう何人か、パート・仕事始めますと。でも、パートなので、その空いた時間で、はっぴいのお手伝いをさせてくださいということで、完全にやめるのではない形でのつながりというのもありますし、新しい方も、うちは公募をしていないのです。全部、それぞれの人の口コミというか、はっぴいにこの人、いいなと思う人を紹介してくださいという形で、人数を増やしていっていますので、この人はちょっとというような人は、本当に入ってこられないのですよね。皆さん、はっぴいってこういう団体だよという趣旨をちゃんと説明してから来られますので、そういうことではすごく安定しているのじゃないかなと思います。
- （**藤田市長**） いろいろお話を聞かせていただいて、事業計画等々も聞かせていただいて、大変なことをなさっているのだなと思います。
- （**白垣代表理事**） そうですね。
- （**藤田市長**） やっぱり、会員さんを含めていろんな方の悩み相談じゃないですか、極端に言ったら。それをやっぱり子育てについて、先輩たちがアドバイスをして、健全に育てていこうと。
- （**白垣代表理事**） 基本、アドバイスはしないのです、私たち。いろんな悩みを傾聴する、聞くということなので、それに対する答えというのは、私たちはほとんど出しません。  
どうするかというと、それはママ同士で、「いや、この人ね、今、こんなね、今、困っているのよ。あなたたち、どうだった？」と言ったら、「あっ、それはね」って、「私んときはこうだったけど、こうしたよ、ああしたよ」と、ママたちを通して解決してもらおうという。もう年齢が離れると、子育てに対する考え方も違いますし、それぞれのしつけのやり方も違うので、私たちがお話しすると、ちょっと押しつけというか、私が言うとお説教に聞こえるそうです。

なので、そういう問題は、もう先輩ママに聞いてね、みたいな、そこで、いろんな知恵

を出し合って、解決してくださいねというふうな方針をとっています。

- （高橋副理事） 困っているとか、苦しんでいるとか、悩んでいるというお母さんがいらしたら、本当にきついねって、苦しいねっていうことは、私たちは共感するようにしております。

そうすると、お母さんの気持ちが安定するのですね。ここに、わかってくれている人がいるというだけで、あとは、その解決の仕方は本人のやり方ですから、子育て講座なんかでいろんなお話をしますけれども、どのようにしてそれをお母さんが乗り越えていくかというのは、お母さんが乗り越えられる力があるのですよということを私たちは尊重して、対していきたいなとやっています。

- （榎木健康福祉部長） 10年間の活動の中で、お母様からの悩み事、困り事をお聞きになる中で、10年間の変化のようなものがありますか。

- （白垣代表理事） 子育て自体に対しては、もう変わらないですよ。同じ悩みですよ、子どもの成長が同じように。

- （高橋副理事） 情報が余りにも多いですね。グーグルでちょっと調べたら、ぶわ一つと情報が出ますね。で、出るのだけれども、それを選択しなければいけないのは本人なので、それにすごく苦しむ。多ければ多いほど苦しいのですよ。お母さんたちが、どれが正解なのだろうというのは、悩んでいる。

- （白垣代表理事） それは、初期のころ、なかったことですよ。検索してどうのこうのというのは。

- （榎木健康福祉部長） その部分は、自分の親御さんとか、じいちゃん、ばあちゃんとか教えてあった部分というのはあったでしょうけど。

- （白垣代表理事） 今はもう、おじいちゃん、おばあちゃんも、両方ともお仕事をしています。皆さん、結構多いのですよ。だから、実家に帰っても、もういない。

それが、その小学校の入学式の託児をしてほしいというものの一つなのです。預けるところがない。親も仕事だという状況ですね。それが前と変わってきた。親が変わったのじゃない、周りの環境が変わってきたという、社会が変わったということが一番だと思います。それにやっぱり対応していかなくちゃいけない。昔のまんまではいけないのじゃないかなということで、お願いできたらということで上げさせていただきました。

- （事務局） 次のサロン視察の時間もそろそろです。これから移動をお願いします。そして、サロン、お楽しみタイムというところの視察をしまして、またこちらに戻りまして、

市から施策の説明といった形で進めさせていただきます。

(サロン視察)

○(事務局) それでは、最後の項目で施策概要の説明です。子育て支援に関係します筑紫野市の主な施策概要の説明を藤田市長がさせていただきますので、よろしくお願いします。

○(藤田市長) 本日はどうもありがとうございました。最後に、市の予算や子育て支援に関係する本年度の事業について説明させていただきます。

こちらは、平成26年度の予算、一般会計の歳出予算の内訳です。本来は今年度の予算で説明すべきところですが、選挙の関係で暫定予算となっておりますので、昨年度の予算で説明させていただきます。

歳出予算の中で一番大きな割合を占めているのが民生費です。子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるものです。予算の42.2%を占め、その額は、約136億6千万円です。

次は総務費、行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使われます。予算額は約34億6千万円、全体の10.7%を占めています。

次に公債費、市の借金を返済するもので、予算額は約31億8千万円、全体の9.8%を占めています。

次は土木費、道路や公園などの補修や建設に使われます。予算額は約29億7千万円、全体の9.2%を占めています。

次は教育費、教育や文化・スポーツなどに使われます。予算額は約29億1千万円、全体の9.0%を占めています。

次は衛生費、健康診断や予防接種、ごみ処理などに使われます。予算額は約28億2千万円、全体の8.7%を占めています。

最後にその他は、議会や農業・商工業、消防などに使われる予算で約33億6千万円、全体の10.4%です。

一般会計の予算総額は約323億7千万円となっております。以上が平成26年度の一般会計歳出予算です。

つづいて、ここから子育て支援に関係する主な施策をいくつか説明します。近年、筑紫野市においても、都市化や核家族化の影響により、身近に育児相談できる者がいないなど、子育て環境は大きく変化しております。このため、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができるように、地域全体で子育てに必要な支援を行う必要があります。そのため

の支援事業について、これから説明します。

最初が、「地域子育て支援センター事業」です。予算額については、こちらも昨年度の予算になりますが、1377万9千円です。育児に悩んだり、相談するところもなく孤立化したりしている親が増えている現状がありますが、そのような方々に、子育ての方法を知らせたり、子育て仲間を作るきっかけづくりをして、子育ての不安を解消するために、親子教室や子育てサロンを開催する事業です。

次が「つどいの広場事業」、予算額は312万7千円です。子育て中の親子が気軽に集まって、お互いが交流でき、また、子育て相談や子育て情報を提供する場として、つどいの広場を開設しています。昨年度は延べ6千495人の方に利用していただいています。

次が「ファミリーサポートセンター事業」、予算額は548万2千円です。子育ての手助けをしたいというまかせて会員と、子育ての手助けをして欲しいというおねがい会員との有料の相互援助活動で、保育所や幼稚園の開所前、閉所後の預かりや送迎などを行うものです。現在の登録数は、まかせて会員が133人、おねがい会員が565人、まかせてとおねがいの両方会員が69人となっており、昨年度は1320件の利用がありました。

次が「一時的保育事業」、予算額は1736万9千円です。保護者が入院、出産や冠婚葬祭、またリフレッシュをしたいなどの理由で、一時的に家庭での保育が出来ない児童を保育所でお預かりする事業になります。昨年度は、延べ7千332人の利用がありました。

次が「子ども医療費支給事業」、予算額は2億4304万6千円です。子どものすこやかな成長を願い、安心して病院などで受診できるように医療費を支給する事業です。昨年度から、入院だけではありますが、対象者を小学6年生まで拡大し実施しています。

最後に「乳児家庭全戸訪問事業」、予算額は288万円です。保健師、助産師と看護師で構成している訪問指導員が、生後4ヶ月未満の乳児がいる全ての家庭に訪問し、乳児の身体計測や発育発達状態の確認、保護者の心身の様子や養育環境の把握などを行い、育児に関する相談への対応や情報提供などを行っています。

以上で、説明を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

- （事務局） 以上が、子育て支援に関係する施策概要でした。皆さん、何かご意見など、ありますか。
- （藤田市長） たくさん事業をしてありますけども、運営はどうですか。
- （白垣代表理事） なかなかボランティアをやっている団体なので状況は厳しいですね。
- （藤田市長） そうですね。フリーマーケットをして資金を捻出しているというお話が

ありましたけどね。大変なのだろうなと思いますね。

○（白垣代表理事） 私たち、いっぱいやっているものですから、やり過ぎちゃって、ちょっと運営するのが大変という状況になってしまってます。

○（藤田市長） 要望があると、それをやってやろうと。

○（白垣代表理事） そうなのですよ。冬休み中に何か子どもにさせたいのだけど、何かやってくれないかなみたいなのということで。今年度はパン教室を夏休み中に計画し、今回は先生をお呼びして、皆でピザとかパンとかを作りたいというので実施するのですが、そういう要望があがってきたら、やろうかなとなりますよね。

○（藤田市長） 少ない予算ではありますが、市のほうとしても子育てに関する事業というのは、やっているのですが、その枠内にはっぴいが入るかどうかというのがありますよね。事業のやり方、あるいは申請の仕方では、それに入るのがあるとなれば、相談をしていただければと思います。

○（白垣代表理事） ありがとうございます。

○（藤田市長） すごい活動をしてあるのですよね。中身の濃いね。それで助かっているお母さん、子どもさんたちがたくさんいらっしゃるのだろうと思いますよ。今日は良い勉強になりました。

本当に和やかな移動市長室をさせていただいたわけですが、非常に内容の濃い、中身の濃い移動市長室だったと思っています。

これは通算45回目なのですが、やっぱりこういうふうにして、じかに声を聞かせていただくと市政に持ち帰って何かに反映してきているのですよね。

やっぱりこれからも続けていきたいと思いますが、市役所の中で、これはこうだよ、これはこうするのが当たり前だよ、というのはもう通らないです、今は。社会現象が変わってきています。子育てだって、白垣さんの時代の子育てと今現在は違うとおっしゃってある。変わるのですよね。だから予算措置にしても施策の組み立てにしても変わっていかないといけない。そのためにこの移動市長室を有効に使わせていただいております。

○（白垣代表理事） 現状を見ていただくというのが一番大事かなと、今どうなっているのかを。

○（藤田市長） そういう意味で、大変今日は参考にさせていただきました。どうもありがとうございました。

○（事務局） これをもちまして本日の全ての日程を終了します。ありがとうございました。